



鹿児島県立図書館

ホットニュース

第1回かごしまの歴史文化講演会 貴重資料紹介展



【原口 泉 先生(志学館大学)】

令和6年度は、原口 泉氏(志学館大学教授)を講師に迎えて、「新生東京を測量した薩摩単人～高木秀明の功績～」と題し、開催します。あわせて、当館所蔵の郷土資料の中から講演内容に係る貴重資料の紹介展(『かごしま古地図・絵図散歩』令和6年7月19日～8月30日)も開催します。ともに郷土の先人たちに思いを馳せましょう。

- 1 日時 令和6年7月27日(土)午後1時25分～午後3時25分
- 2 会場 県立図書館1階大研修室
- 3 講師 原口泉氏(志学館大学人間関係学部教授)
- 4 演題 『新生東京を測量した薩摩単人～高木秀明の功績～』
- 5 定員 180人(申込受付順)

※ 講演会の申込み方法等の詳細については、後日ホームページ等で御確認下さい。

図書館で探そう、調べよう!

島津義弘が連れていた猫の姿が知りたい

島津義弘が戦場に連れて行った、猫の姿について知りたいという質問です。

まずは、「義弘」と「猫」をキーワードに、当館の資料検索や過去の事例の検索を行いました。

すると、島津氏30代当主である島津忠重氏による『炉辺南国記』(島津忠重/著 鹿児島史談会1957年)のp.34に「磯邸」の項目があり、猫神として祀られている、義弘の猫についての記述がありました。そこには「そして七匹のうち五匹までは戦地で死んだが、二匹だけは帰った。この猫は黄白二色の波紋で、義弘の次子久保に愛せられ、この猫をヤスと命名していた。」とあり、猫の模様がわかりました。

さらに、事例検索で「猫神」をキーワードに検索した結果から、類似の内容ですが、次の資料を紹介しました。

『鈴の音が聞こえる 猫の古典文学誌』(田中貴子/著 淡交社 2001年) p.144-159に「島津家の猫」の項目があり、島津義弘の猫についてまとめられており、先の『炉辺南国記』も引用されていました。

『吉野史談 第11～15号』(吉野史談会 編 1988～1990年)の12号p.28-29に「2 猫神の由来について」という項目があります。この中で「(前略)・・・久保が可愛がっていた猫が黄と白のマダラの毛のものであったことからこの猫に「ヤス」と命名した。」とありました。

ピンポイントの質問は、調査に時間がかかることも多いのですが、過去の事例が回答につながった質問でした。

《一般図書》6月28日(金)

新着図書案内

《児童図書》6月23日(日)

- チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか?
木下 理仁/著 旬報社
- 三淵嘉子 先駆者であり続けた女性法曹の物語
神野 潔/著 日本能率協会マネジメントセンター
- ビッグバンからあなたまで 若い読者に贈る138億年全史
シニア・ストークス・ブラウン/著、片山 博文/訳、市川 賢司/訳 亜紀書房

- キミのからだはキミのもの
ルシア・セラーノ/絵と文、宇野 和美/訳 シオリータ/監修 ポプラ社
- キュリオとオウムの王子
齊藤 洋/作、ももろ/絵 講談社
- となりのきみのクライシス
濱野 京子/作、トミイ マサコ/絵 さ・え・ら 書房



左の二次元コードから今月の新着資料のすべてを御覧いただけます。画面上段のプルダウンリストから館種と図書種別が選べます。お探しの分類(歴史、文学全般 等)をお選びください。

催し物の御案内



- 一般閲覧室ミニ展示
6月1日(土)～6月30日(日)
「もっと知りたい お金の歴史」
7月3日に新紙幣が発行されます。お金や貨幣の歴史、紙幣に載った人物の本など関連本を集めました。
- 児童文化室ミニ展示
6月23日(日)～7月21日(日)
「もっと知りたい お金のはなし」
今年は、お札の絵柄が新しくなります。お金について学んでみよう。
6月23日(日)～8月31日(土)
「『?』を追求!自由研究」
夏休みの自由研究で、「?」を解決しよう。自由研究にぴったりの本たちです。

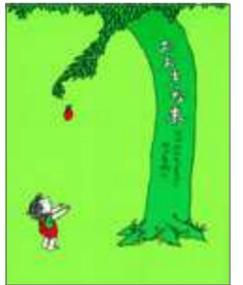
職員のつぶやき

今年は夫と息子の引っ越しが同時に重なり、慌ただしい春であった。時間に追われながら荷物を整理していると、その中にある多くの本を見て、片付けがなかなか進まなかった瞬間があった。夫がこの本を読んでいたのは、あの頃だったなあ、息子がこの本を読んでいたのは、幼稚園の年長の頃で、こんな会話が合ったなあ……など、まるで色鮮やかな写真のアルバムを見ているような感覚で思い出されるのである。本には、その内容だけでなく、読んでいた時間や空間まで思い出として残す力があるのだなと感じた瞬間であった。私たちの身の回りには思い出を残す道具がたくさんあるが、特に、本は開いて文字を読み、内容を理解し想像を広げるため、時間を要する。片付けがなかなか進まない思いながらも、こんな時間もまたいい思い出になるのだろうと自分を正当化していた春の出来事であった。

わが家・わたしの「宝本」

今回紹介していただいた宝本は、シェル・シルヴァスタイン/作、村上 春樹/訳の『おおきな木』(あすなろ書房)です。

わたしの宝ものの本は、大きな木です。なぜ、おおきな木が宝ものの本かということ、1回2年生の時に読んでみて「これはとてもいい本だ」と思ったからです。それからなん回もなん回も読んで、あきませんでした。わたしは、どんどん男の子はせいちょうして、木はどんどんちぢんでしまうという悲しいお話がとてもいいお話だとも思いました。だから、わたしは1週間に5回は読むようにしています。



(家族からひとこと)きれいな緑の表紙に目をキラキラさせて、この本を持ってきたのを覚えています。その日から寝る時もとりにあるくらいお気に入りですね。この本の内容は、考え方や読む人によって感じ方がいろいろで少しむずかしいかなと思いましたが、でも、そこが「いいお話」なんだよね。大きな木はいつも少年によりそってくれる存在で、帰る場所。お母さんも「大きな木」でありたいです。

児童文化室から

にじいろのほん『ぎったんぱっこん』
なかえ よしを/文、上野 紀子/絵 (文化出版局)
からのクイズです。

ぎったんぱっこんに さいごにのったのは?

- ①いぬ ②とり ③ぞう

ヒント

おおきくて おもいよ

答え、自分の名前、利用者カード番号を書いて、児童文化室にある箱に、7月14日(日)までに入れてください。正解者のなかから抽選で20人にしおりなどのプレゼントを差し上げます。

前回の答えは「②カーテン」でした。たくさんのお返事ありがとうございました。

図書館カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
6月	16	17	18	19★	20	21	22
	23	24	25	26★	27	28	29
	30	1	2	3★	4	5	6
7月	7	8	9	10★	11	12	13
	14	15	16	17★	18	19	20◆

開館時間 火曜日～土曜：9時～21時
日曜日・祝日(白抜)：9時～17時

- は、休館日
- は、学習室のみ開室(9時～17時)
- ★は、おはなしのじかん(毎週水曜日15時30分～16時)
- ◆は、土曜版おはなしのじかん(第3土曜日14時～)
- ◇は、一般閲覧室新着図書の日(6月14日,28日,7月12日予定)
- は、児童文化室新着図書の日(6月23日)

カバー、ページ破れ等の破損等を見つけたら、御自身で修理せずに、カウンターまでお持ちください。